

8月24日(日)

焼いても揚げても、南蛮漬けにも

ハタハタ干し

1パック(200g)

680 (税込) 円

西田鮮魚店 72-5246

御用聞き便専用番号 090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

お盆には沢山のご注文ありがとうございます。ございました。お客様により良いサービスを提供出来るようスタッフ一同努めて参ります！

我が家の話を少しさせて頂きます。息子と娘がいるのですが、今年空手の全国大会に出場する事ができました！兄妹揃って全国大会は親としてもやっぱり嬉しく思います。

15日から17日迄の3日間、長野県で長男の団体戦。21日から24日まで、東京で長女の個人戦と今年は大忙しの祐宗家です(笑)。

話が逸れましたが…本題です！

今回の広告は、焼いても揚げても、南蛮漬けにしても美味しいハタハタ干しです!!丸ごと食べられ、カルシウムもたっぷり取れるがいいですよ〜！自分は素揚げが一番美味しいと思います。

今回は、日頃の感謝の気持ちを込めて特別特価で提供させて頂きます！

沢山のご来店お待ちしております。

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

『ここからのジョイフルはコミュニティセンター!?!』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I 次善の策

ジョイフルの先が見えてこない。ほんとは、すぐにでも解体したい。しかし、同意が得られない。

あれやこれや、この紙上で何度も書いたし、誰かに問われるたびに話してきた。

「なんでわかってもらえんのか」

正直そう思う。しかし、先方には先方の言い分があるのだろう。今ここでまたそれを繰り返そうとは思わない。いたずらにエネルギーを浪費するだけだ。立ちすくんでいる場合じゃない。

解体、そして新しいショッピングモールをつくる。

それが最善の策だ。その最善の策が袋小路に陥っている。やむを得ん。それならそれで、次善の道を探ろう。

そうすることで、思いもしない道が開けてくることもある。新たな展開の呼び水になることもある。今までそうして生きてきた。今度も……。

II 道の駅って？

一度、ジョイフルを『道の駅』に建て替えたいと書いたことがある。庄原の町にはピッタリじゃあないかと思った。

『道の駅』のイメージは、山ならば、そこでとれる野菜や果物、海ならば、そこである魚を取り揃えてあるところ。私の中では単純にそうなっている。

とはいえ、『道の駅』は国土交通省の管轄のもとにあるみたいだから、『道の駅』という名前を使うにはいろいろ条件があるらしい。こんな感じだ。

① 24時間無料で使えるトイレ、駐車場は必須。

まあそれはそうだろう。『駅』というくらいだから。

② 道路案内、観光案内の情報を提供すること。

確かに、その土地の産物や名所のパンフが必ず置かれている。

③ 文化教養施設、観光レクリエーション施設。

よくわからないが、『道の駅たかの』でいえば、『雪室』なんかそれぞれにあたるんだろうか。

III 文化教養施設 観光レクリエーション施設

さて、ジョイフル。

建て替えるなら一から考えることができる。しかし、先に言ったように、それはできない。解体できないのだから。解体しないかぎり『道の駅』を認めてもらえるはずがない。

なら、今あるジョイフルに『道の駅』のような役目をもたせればいい。そう考えた。

といって最初から、そう考えていたわけじゃない。退店、閉店が出るたびに、その空いたスペースをどうするか考えた。そして、それを実行していくうちに見えてきたのだ。

そうだ。『道の駅』だ。要するに③にあるような文化的なもの、レクリエーション的なものをジョイフルにつくろう。そして、地域の人が集えるジョイフルにしよう。そうだ、それがいい。

ジョイフルはショッピングセンターとして生まれたけど、今では店は半減して、空きスペースをどうするかという問題に直面している。ものは考えようだ。この空きスペースをじゃずに使えばいい。

『道の駅』は言い方を変えれば、『コミュニティセンター』だ。いつしか、そう思うようになっていった。

3年前、『マスヤ』の前の空きスペースを『つばめ塾』という無料の学習塾を運営している県大の学生さんに提供した。今もがんばって続けている。

これから、書道教室にも使ってもらう予定だ。

今年6月、『得得屋』の跡に『永江 ニカイノマーケット』という手づくりの作品を集めたマルシェを開いた。

同時に閉店した『ペピーズ』の跡に、ゲームコーナーを寄せ、『鬼滅の広場』を『モルック』の専用スペースにした。

そして今は『プリンセスガーデン』を『宮角孝雄 グランドゼロ祈りと平和のギャラリー』として生まれ変わらせようと企画している最中だ。

IV モルック専用スペース

モルックの専用スペースは、しばらくのあいだ無音だった。ある日、カーンという木がぶつかる音がした。小森館長が行ってみると、高校生の子たちが、モルックで遊んでいる。声をかけた。「おもしろいじゃろ!」「はい」。静かになったので行ってみると、モルックの道具は、遊ぶ前と同じようにきちんと並べられていた。それから、放課後、彼らの姿が、よく見られるようになった。

8月9日。ジョイフル夏祭りの日。

『庄原市制施行20周年記念協賛事業』として『庄原市民 enjoy モルック大会 in ジョイフル』という大会を行った。協賛というか運営はすべて、『KUSUBE建築工房(株)』の楠部さんが、モルック普及のためにつくった『Bee Wood Molkky』。

午前と午後の部に分かれ、それぞれ9チーム、計18チームが競い、『モルックボーイズ』と『ハッピーバースデイ』というチームが優勝した。うちの龍一と塩本の一平君のチーム『シニア・モルック・アソシエーション』は見事、最下位だったそう。

これから、モルックは盛んになるらしい。

庄原を全国一、モルックが盛んな市にしたい。その拠点にジョイフルがなればと思う。

V 永江 ニカイノマーケット

6月から始めた『永江 ニカイノマーケット』。今は23ブース、すべて埋まっている。最初は9ブースだったか、空いている売り台が目立ったが、口コミなどで出店してくださる人が増えていった。

各地のマルシェに出品されているプロはだしの人、自分がつくったものが売れるんだろうかとドキドキの人。23人23様だ。

売れる売れないじゃない。ものづくりが好きだけ。でも、売れたら、やっぱりうれしい。けっこうみなさん、やる気だ。それぞれに工夫されている。

いろいろ、改善しなければいけないことがある。

出店場所の問題、出店を待っていただいている方の問題。

小森館長が、うんうん言いながら知恵を出しているところだ。



永江 ニカイノマーケット
出店者募集中
お問い合わせは
0824(72)4111まで

VI 宮角孝雄 グランドゼロ祈りと平和のギャラリー

7月に宮角さんの写真集『グランドゼロヒロシマ ラブ アンド ピース』の写真展を行った。

プリンセスガーデンの空気が変わった。原爆の日、終戦記念日と続いたせいもあるんだろうが、空気が変わった。この空気を残したかった。

宮角さんをお願いした。この写真を、このままここに展示しておくわけにはいきませんか。

宮角さんにしてみれば「?」だ。言葉を交わすうち、私の中で常設のギャラリーにしたかどうかという思いが広がった。

紙面が無くなった。次の機会にまた報告させてもらおう。

これって『コミュニティセンター』じゃろ?!

2025年8月24日